

京師帝國大學法學科大學

經濟論叢

第二卷 第三號

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二卷)

講師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二卷)

講師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係(戦後經濟問題)

法學博士 神戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講師 本庄榮治郎

雜 錄

經濟雜話第二

法學博士 田島錦治

(四) 奢靡と吝嗇 (die Verschwendung und der Geiz)

歐洲人ハ概シテ奢靡ヲ以テ吝嗇ヨリハ道德上幾分カ寛容スヘキ行爲ト爲セル如シ故ニ Roscher ハ曰ク吝嗇ハ奢靡ヨリハ一層醜惡ニシテ道德行爲ニ一層背戾スルモノナリト又 Gide ハ曰ク余輩ノ絶エズ目撃スル如ク輿論ノ判斷ハ常ニ貯蓄スル人ニ嚴酷ニシテ浪費スル人ニ寛大ナリ羅馬教會ハ吝嗇ヲ「七死罪」(the Seven Deadly Sins)ノ表中ニ列シタレトモ奢靡ヲ列セシメザリキ未タ如何ナル小説家モ又未タ如何ナル劇作者モ冷酷ニ守銭奴ヲ嘲罵セザリシ者ハアラザリキ而カモ彼等ノ多數ハ浪費者ニ對シテハ同情ヲ表シタリキト (1)

東洋例ヘハ我國ニ於テモ古來都會ニマレ村落ニ

マレ町内又ハ村内ノ富者ニシテ錢財ヲ浪費スル者ハ敬愛セラレ貯蓄スル者ハ憎惡セラルルコト歐洲ニ於ケルト異ナラズト雖獨リ君主又ハ諸侯ノ奢靡ニ對シテハ東洋特ニ支那ニ於テ古來之ヲ非難シ戒飭スルモノノ經史ニ多ク見ユレトモ吝嗇ニ對スル非難ハ寥々トシテ多ク見當ラズ而シテ儉約ヲ尊ソノ訓言ハ蓋シ亦枚舉スルニ遑アラス今其二ニヲ例證センカ尙書ノ商書太甲ノ篇ニ「尹カ王太甲ニ訓フル語ノ中ニ慎ニ乃儉德ニ惟懷ニ永圖」ノ詞アリ汝ノ儉約ノ德ヲ慎シミ行ナヒテ永久ノ計圖ヲ思ヘ奢靡ナルトキハ國ハ亡ブベキゾト訓戒シタルナリ又同書ノ周書泰誓ノ篇ニ周武王カ射殷ノ紂王ヲ伐ツ時紂ノ罪ヲ數フル語ノ内ニ「惟宮室臺榭、陂池侈服、以殘害爾萬姓」トアリ是レ紂カ華麗ナル宮殿高濶ナル園囿奢侈ナル服飾ヲ作り之カ爲ニ民ノ財ヲ竭クシ民ノ力ヲ窮メテ民ヲシテ塗炭ノ苦ニ陥キラシメタルヲ責ムルナリ又同書周書官ノ篇ニ「成王カ卿士ヲ戒ムル勅語ノ中ニ曰ク位不期驕、祿不期侈、恭儉惟德、無載爾僞」ト是ハ位貴ケレハ驕ルヲ期セス

1) W. Roscher, Grundlagen der Nationalökonomie, 22 Aufl. S. 653; Ch. Gide's Principles of Political Economy, engl. Transl. 1902. p. 361

シテ自ラ驕ルルニ至リ祿厚ケレハ修ヲ期セスシテ
 自ラ修ニ至ルモノナレハ慎ミテ恭儉ヲ行ナヒ以
 テ徳ヲ立テ汝ノ僞ヲ戢ナクフコト勿レ誠實ニアレト
 イフナリ

齊ノ管仲ハ其驕奢ノ生活ヲ爲シタルヲ孔子ニ譏
 ラレタル人ナレトモ(論語)而モ其著書管子ノ八
 觀ノ篇ニ審ニ度量、節ニ衣服、儉ニ財用、禁ニ侈泰チヤムル、爲
 國之急也トイヘリ其意ハ日用ノ度量ヲ審カニシ
 衣服ノ修飾ヲ務メズ一般ノ財用ヲ儉約ニシ侈靡
 ヲ禁制スルハ國ヲ治ムルノ急務ナリトイフナリ
 孔子カ驕奢ヲ抑ヘ儉約ヲ勸メタル訓言ハ論語ニ
 多ク散見ス即チ林放カ禮ノ本ヲ問フニ答ヘテ大
 ナル哉問ヤ禮ハ其奢ランヨリハ寧ロ儉セヨトイ
 ヒ(論語八佾篇)奢ナレハ則チ不遜ニシテ儉ナレハ
 則チ固(固陋ノコト)ナリ其不遜ナランヨリハ寧ロ固
 ナレトイヒ(論語述而篇)貧ニシテ怨ムコト無キハ
 難ク富ミテ驕ルコト無キハ易シトイヒテ富者ノ
 猛者ヲ促シタリ(論語憲問篇)夫レ斯クノ如ク驕奢
 ヲ戒メ儉約ヲ勸ムル訓言ハ甚タ多シト雖吝嗇ニ
 對スル訓戒ハ甚ダ乏シクシテ余ノ記憶スル所ニ

テハ僅カニ孔子カ周公ヲ嘆美スル語ニ若シ周公
 ノ才ノ美アルモ驕且吝ナラシメハ其餘ハ觀ルニ
 足ラサルノミトアルヲ唯一ノ例證トスヘキナリ
 (論語泰伯ノ篇)

之ヲ要スルニ歐洲古來ノ學者カ奢靡ヲ寬容シテ
 吝嗇ヲ嫌惡シタルハ蓋シ私人經濟的ノ觀點ヨリ
 出ツルナラム何トナレハ同シ街衢ニ住ミ又ハ同
 シ鄉村ニ在ル人民中ノ富豪カ若シ其錢財ヲ浪費
 スレハ他人ハ之カ爲メニ損失ヲ蒙ルコトナク
 シテ或者ハ必ス其餘澤ヲ受クヘク之ニ反シテ彼
 カ鄙吝ナルトキハ街衢若クハ鄉村ノ祭禮土木其
 他共同ノ費用ニ對シ彼ノ齷出スルコト自カラ少
 ナカルヘケレハナリ然リ而シテ支那古來ノ學說
 カ吝嗇ノ非難ニ冷淡ニシテ驕奢ノ戒飭ニ熱烈ナ
 ル所以ハ蓋シ國民經濟的觀點ニ本ツクナラム何
 トナレハ此等ノ訓言ハ重ニ君主諸侯ニ對スルモ
 ノニシテ君主諸侯ノ驕奢ハ即チ其根源ヲ人民ノ
 財貨勞力ニ取ルヲ以テナリ
 本項ヲ畢ルニ際シ尙一言附記スヘキハ Roscher
 カ經濟上ニ於テハ奢靡ハ吝嗇ヨリハ非常ニ危險

ナルコトヲ指摘シ而シテ吝嗇ノ奢靡ニ優ル所以
ヲ最モ奇警ナル古人ノ詩句ニ由テ説明シタルニ
在リトス

“Den Geizhals und ein fettes Schwein

Sieht man in Tod erst nützlich sein”(v. Lagan)

譯、死シテ後、始メテ役ニ立ツモノハ、

肥エタル豚ト、吝嗇ノ人、(2)

惟ソニ此短詩ハ意味深長ニシテ實ニ千言萬語ノ
論說ニ勝ルモノト謂フ可シ

(五) 社會的生產及ヒ社會的消費

財ノ生産トハ人カ效用ヲ作出スルヲ謂ヒ財ノ消
費トハ人カ效用ヲ享受スルヲ謂フ生産ハ手段ニシ
テ消費ハ目的ナリ生産及ヒ消費ノ客體 (Object)
ハ有形財及ヒ無形財ニシテ之カ主體 (Subject)
ハ人ナリ人ニ自然人アリ法人アリ法人ニ公法人
アリ私法人アリ是等ノ各人格者ハ生産及ヒ消費
ノ主體タルヲ得而シテ是等各人格者ノ生産若ク
ハ消費ヲ指シテ余ハ個人的生産若クハ個人的消
費トイハント欲ス何トナレハ是レ個別經濟體タ
ル人格者ノ生産若クハ消費ナレハナリ故ニ謂ハ

ユル個人的ナル語ハ通俗ノ用語ヨリハ稍廣汎ナ
ル意味ヲ有シ當ニ私經濟體ヲ指スノミナラス國
及ヒ地方自治體ノ如キ公經濟體ヲモ指スナリ是
等個人的生産ノ集合ハ社會的生産ニシテ個人的
消費ノ集合ハ社會的消費ナリト謂フヘシ然リ而
シテ余ノ考フ所ニテハ此外ニ社會カ社會トシテ
生産シ又ハ消費スル所ノモノアリ余ハ之ヲ固有
ノ意義ニ於ケル若クハ狹義ナル社會的生産又ハ
社會的消費ト稱セント欲ス

狹義即チ固有ノ意義ノ社會的生産トハ文明ノ進
歩人口ノ増殖法制ノ變遷等凡ソ社會事情ノ變化
ニ伴ナヒ效用カ作出セル場合ヲ謂ヒ例ヘハ繁華
ナル都會ノ附近ノ土地カ個人ノ努力若クハ投資
ニ由ラスシテ其效用ヲ増加シ隨テ其價值ヲ高ム
ル如キ又私有財產制度カ巨富ノ集積ヲ容易ナラ
シムル如キ又文明國民間ニ於ケル學術的發明發
見ノ如キ余ハ其大部分ハ各個人ノ生産ニ屬セス
シテ寧ロ狹義ノ社會的生産ニ屬スルヲ確信スミ
る氏カ此等ヲ呼ビテ *unearned increment* トイフハ
個人ノ努力ニ基ツカサル價值ノ増加ナルヲ示ス

2) 前掲 Roscher 著書第六五四頁注一參照

モノニシテ之ヲ不勞增價ト譯サハ或ハ可ナラン然ルニ之ヲ自然的增價ト譯スル人アリ是レ恐ラクハ妥當ナラス何トナレハ自然的增價トイフトキハ個人ノ力ニモ因ラス又社會ノ恩恵ニモ依ラス單ニ自然力ノ作用ニ由リテ效用ノ發現セラルル場合ト混同スルノ誤謬ニ陥ルヘキヲ以テナリ單ニ自然力ノ作用ニ由ル所ノ效用ノ作出ハ余之ヲ財ノ自然的發現ト稱ス例ヘハ野生菓實ノ自カラ熟シ河川ノ氾濫ニ由リテ土地ノ肥度カ増加シ又ハ河川ニ寄洲中洲ヲ生シテ自カラ耕地ヲ増加スルカ如キハ財ノ自然的發現ト稱スヘク若クハ自然的增價ト呼フヘキモノニシテ決シテ前掲社會的生産ト混同スヘカラサルナリ然ラハ則チ「*Conrad*」氏カ「*eine Wertnehmung kann ferner auch durch die *Natur* allein geschehen. Das ist der Fall, wenn z. B. in der Nähe einer Stadt an unbenutzten Bergabhängen ohne menschlichen Zutun eine Wald aufwächst, der mit der Zeit einen hohen Wert gewinnen kann*」(Conrad, Grundriss I. 1910, S. :6)ト論シタルハ財ノ自然的發現ト社會的生産トヲ混同セル嫌アルニ似タリ蓋

シ都會ニ近キ丘岡ニ樹木ノ自カラ繁茂生長スルハ固ヨリ財ノ自然的發現ナリト雖其都會ノ近傍ニ在ルカ爲ニ價値ヲ増加スルハ是レ社會ノ力ニ因ルモノニ非スヤ
 次ニ財ノ社會的消費ニ就テ一言セン狹義即チ固有意義ノ社會的消費ハ社會ヲ組成スル個人カ全體トシテ或效用ヲ享受シ之ヲ減却スルヲ謂フ例ヘハ國民ノ慣習流行ノ變化ニ因リ又ハ法律ノ制定改廢ニ因リ又ハ戰爭ニ因リ或種類ノ財ノ效用及ヒ價値ノ減少又ハ滅失スルカ如キ是ナリ實例ヲ舉クレハ我維新ノ初ニ於テ政府ノ發布セル佩刀禁止ノ法令ハ刀劍ノ效用及ヒ價値ヲ甚シク減少シ歐風禮裝ノ流行ハ紋服麻袴ヲ殆ント無用物タラシメタリ蓋シ此等ノ場合ニ於テ我國民社會ハ新ナル風俗ノ效用ヲ享受センカ爲ニ刀劍紋服麻袴等ノ效用ヲ犧牲ニ供シタルモノニシテ炭ヲ焚キテ暖ヲ取り油ヲ燃ヤシテ燈明ヲ得ルト異ナルコトナシ、是レ余カ之ヲ社會的消費ト稱スル所以ナリ而シテ佩刀禁止令發布後二三十年

ヲ經テ内外國人ノ日本刀ニ對スル歷史的骨董的
趣味カ漸ク加ハリ來レル爲ニ一時ハ鈍菜刀ヨリ
モ劣視セラレタル日本刀ハ今ヤ再ヒ珍重セラ
ルニ至レリ是亦社會的生産ノ一例ト謂フヘキナ
リ

戰爭ニ要スル直接ノ費用ハ固ヨリ國ナル公法人
經濟ニ屬シ前掲ノ廣義ナル個人的消費ノ一部ナ
リト雖國カ戰爭ヲ行フニ由リテ國民カ受クル所
ノ總テノ犠牲特ニ謂ユル間接的軍費ノ總テハ國
民カ其獨立ヲ維持シ外侮ヲ斥クル所ノ效用ヲ享
受スルカ爲ニ支出スルモノナルヲ以テ其固有ナ
ル社會的消費ニ屬スルヤ論ヲ竣タサルナリ